

2009年度

科目名	仏教学		
担当教員	貫名 讓		
配当	教育3	コード	25050
開期	通年	講時	火曜日5限
		単位数	4
授業テーマ	『歎異抄』にみられる親鸞の仏教観		
目的と概要	親鸞に大きな感銘を受けた唯円によって著された『歎異抄』を読みながら、その中に表される親鸞の仏教観をうかがっていきたいと思います。『歎異抄』は親鸞の書いたものではありませんが、前半部分は親鸞の言葉として表されていますので、言葉の一つ一つに親鸞の心が如実に表されていると思います。後半部分は、親鸞の教えを唯円なりの解釈でもって表現していきます。前半の文章も後半の文章も、それらは、現代にも生き生きとして語りかけているように感じられます。本講義では、前期は『歎異抄』の前半部分(第1条～第10条)を読みながら、親鸞の仏教観に触れてみたいと思います。後期は後半部分(第11条～第18条)を読みながら、唯円と親鸞の心に触れてみたいと思います。		
成績評価法	総合評価(平常点・レポート課題の提出)		
テキスト	歎異抄／梯 實圓解説／本願寺出版社編		
参考書			
履修に当たっての注意・助言			
講義計画			
◆前期			
1. オリエンテーション: 講義概要と講義の進め方			
2. 『歎異抄』の概略			
3. 序: 唯円の思い			
4. 第1条: 信じる心とは			
5. 第2条: よきひとのおほせを聞いていく			
6. 第3条: 善人よりも悪人の方が救われる(!?)			
7. 第4条: 小さな慈悲と大きな慈悲			
8. 第5条: 念仏は先祖供養ではない			
9. 第6条: 私(親鸞)には弟子は一人もいない			
10. 第7条: 念仏者は何ものにも妨げられない			
11. 第8条: 念仏は私のものではない			
12. 第9条: 念仏を称えても喜びの心がわいてこないのはなぜ?			
13. 第10条: ありのままの心			
14. まとめ			
15. 課題			
◆後期			
1. オリエンテーション: 講義の概略と進め方			
2. 『歎異抄』の構造			
3. 第11条: 阿弥陀仏の誓願(ねがい)と名号(名前)の関係について			
4. 第12条: 浄土往生に学問は必要か?			
5. 第13条: 薬があるからといって、毒を好んで飲む人がいるのでしょうか?			
6. 第13条(続)			
7. 第14条: 念仏の回数は問題ではない			
8. 第15条: 煩惱を消滅させることができるのでしょうか?			
9. 第16条: 「心をあらためる」とは、ただ一度だけあるものです			
10. 第17条: 真実と方便			
11. 第18条: お布施の多少は関係ない			
12. 後序: 歎異抄の総括			
13. まとめ(1)			
14. まとめ(2)			
15. 課題提出			